

電磁波吸収テープ NRF-005T の導入(5)(HP 収載)

－仮想アースへの適用(5)－

1. 始めに

前方(4)に引き続き、旭化成の Pulshut を応用したオヤイデの電磁波吸収テープ NRF-005T の仮想アースへの適用を検討します。

2. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試聴方法

今回は、USB 端子に使用するコネクタと USB メモリーに NRF-005T を貼りつけてみます。



USB A 端子/B 端子変換コネクタ



NRF-005T 貼り付け

USB A 端子/B 端子変換コネクタ

上記のコネクタに NRF-005T を貼りつけます。このものを仮想アース 13A 号機とします。



木片加工 USB メモリー



木片除去 USB メモリー



NRF-005T 貼り付け USB メモリー

上記の USB メモリーはプラスチックケースを剥がして木片加工したものの木片を取り覗いて NRF-005T を貼り付けつけます。Pulshut の表面は絶縁性が保証されていますので、メモリー回路の短絡などの心配は要りません。このものを仮想アース 13B 号機とします。

上記の接続対象は PC とし、前報(4)と同じく、PC による BPODCH の再生とハイレゾファイル音源で試聴します。

3. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試聴結果

PC には、Clone2UA 経由で電解コンデンサーを接続していますので、いったんこれを外し、上記の NRF-005T を貼りつけた A 端子/B 端子変換コネクタと NRF-005T を貼りつけた USB メモリーを付け外ししながら試聴していきます。

NRF-005T を貼りつけた A 端子/B 端子変換コネクタでは、以下のようになりました。



PC 経由の BPODCH の再生のマーラーの 3 番では、顕著とは言えませんが、音の分離がよくなり、楽器の質感が向上します。

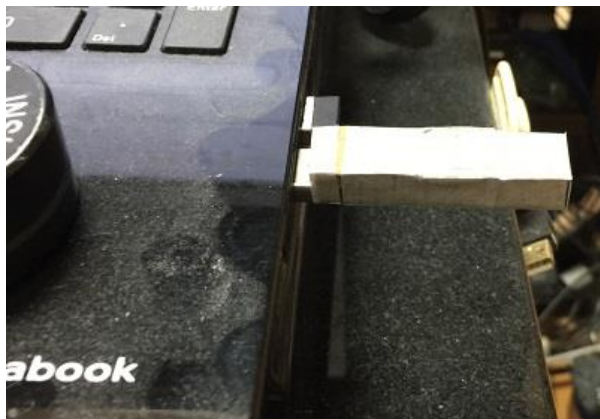
リストのピアノ協奏曲 1 番では、顕著とは言えませんが、オーケストラの音の分離が向上し、ピアノの打鍵がクリアになります。

PC の TEAC Hi-Res Editor によるハイレゾファイル音源再生では、菊池洋子のバッハの Goldberg 変奏曲の Live Extreme による配信からの 5.6MHz DSD 録音と小川理子の 78 回転盤 Jazz の TohrensTD124 の再生からの 5.6MHz DSD 録音を再生してみました。

クラシックピアノとジャズピアノですが、ともに顕著とは言えませんが、打鍵のアタック感がクリアになります。小川理子のほうでは、ベースやドラムスもクリア

一さが増します。

NRF-005Tを貼りつけたUSBメモリーでは、以下のようになりました。NRF-005Tを貼りつけた状態でもUSBメモリーは正常に動作しています。



PC経由のBPODCHの再生のマーラーの3番では、音の分離が向上し、特に低弦やグランカッサの響きが明瞭になりますので迫力が増し、相対的にRF-005Tを貼りつけたA端子/B端子変換コネクタより効果は顕著です。

リストのピアノ協奏曲1番では、オーケストラの音の分離が向上し、ピアノの打鍵がクリアーになり、その効果は、NRF-005Tを貼りつけたA端子/B端子変換コネクタより大きいことが分りました。

PCのTEAC Hi-Res Editorによるハイレゾファイル音源再生では、菊池洋子のバッハのGoldberg変奏曲のLive Extremeによる配信からの5.6MHzDSD録音と小川理子の78回転盤JazzのTohrensTD124の再生からの5.6MHzDSD録音を再生してみました。

クラシックピアノとジャズピアノですが、ともに顕著とは言えませんが、打鍵のアタック感がクリアーになります。その効果はNRF-005Tを貼りつけたA端子/B端子変換コネクタより大きく、小川理子でも、ベースやドラムスも切れ味が向上します。

以上、NRF-005Tを貼りつけたA端子/B端子変換コネクタとNRF-005Tを貼りつけたUSBメモリーの効果を認めましたが、前者はプラスチック製の函体の上からNRF-005Tを貼りつけ、後者はメモリーの回路をむき出しにし、より近接してNRF-005Tを貼りつけています。

4. まとめ

NRF-005Tを貼りつけたA端子/B端子変換コネクタとNRF-005Tを貼りつけたUSBメモリーの効果を認めましたが、効果の度合いは後者の方が大きいことが分りました。

以上